

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2024.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

皆さんこんにちは。

E-learning教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。

こちらは主に、人文・社会科学系の4回生・M1の方を念頭に置いた内容になっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの教材で構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

論文の検索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を得る方法を学びます。

2つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献探索を行った結果として得られた、論文の書誌情報をもとに、実際に論文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください。

本教材の目標

学習目標1：

先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できる

学習目標2：

「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：

文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

この教材の学習目標は、こちらの3つです。
前置きは良いから、「とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてください」と思われるかもしれません。
しかし、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう可能性が高くなります。
ですので、学習目標1を踏まえた上で、学習目標2・3で示しているような2つの文献探索アプローチを学んでいきます。

本講習会の構成

1. 先行研究調査とは何か
 2. 「芋づる式」による先行研究調査
 3. 文献データベースについて（概要）
 4. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査
 5. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査－CiNii Researchを事例に
- 補遺. シソーラスを備えたデータベース

教材はこのような構成になっています。
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

1. 先行研究調査とは何か



それでは、さっそく第1章「先行研究調査とは何か」について説明していきます。

先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜなら、研究は基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから

6

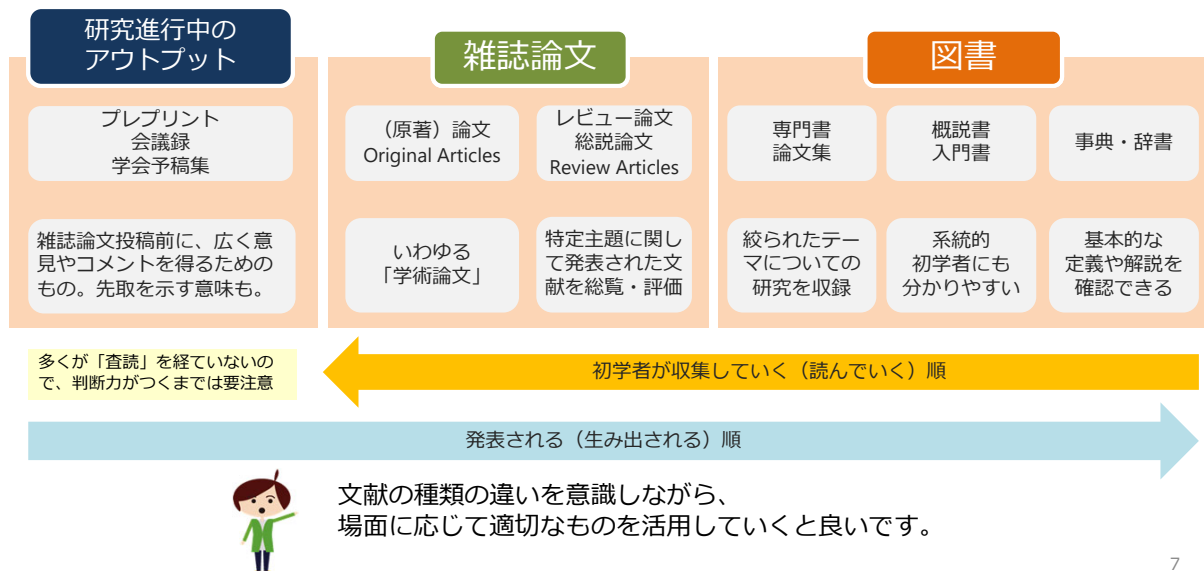
「先行研究調査」とは、自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することです。研究の最初に踏むべき手順といえます。

皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

研究は主に、雑誌論文や学術書などの「文献」の形で発表されるので、文献を「適切に」集めて読むことが先行研究調査の基本的な手段となります。

この教材を通じて、文献を「適切に」集めるということについて理解するようにしてください。

研究の流れと学術文献の関係



一口に「文献」といっても、さまざまな種類があります。主なものをまとめたのがこちらの図です。

大きくくりとして図書、それから雑誌論文があります。

ただし、あるテーマについての論考を集めた論文集と、特定のテーマに関する文献を総覧・評価するレビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また研究分野によっては、プレプリントや会議録など、研究進行中のアウトプットが学術文献として流通することもあります。

研究は、まず論文として生み出されたあと、別の研究者によって引用され、議論されます。

時間がたてばたつほど議論が深まり、共通の認識となり、図書としてまとめられることが多いです。

さて、先行研究調査というと、まず論文を探して読む、というイメージが無いでしょうか？

しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという皆さんにとっては、まずは事典や辞書、概説書や入門書など、系統的にまとめた「図書」から読んで理解を深めていくのがよいでしょう。

つまり、研究成果が生み出される順と、初学者が読んでいく順が逆になります。事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まります。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）

研究史を把握する

調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で
定義や解説、研究史を理解する

↓

専門書や論文で
研究における実際の活用事例を知る

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる

⇒研究者としての意義にもつながる

8

先行研究調査には、学習者としての意義と研究者としての意義があります。

まずは「学習者」としての意義です。先行研究調査は、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむことにつながります。

先行研究を読むことで、その分野における既存の認識や専門用語、研究史、調査手段や分析手段を学ぶことができます。

最初に事典類や概説書で定義や解説・研究史を読んで基本を理解した上で、専門書や論文に進み、実際の研究の中でどのように用語や理論、調査・分析手段が活用されているのかを知っていくようにすると良いでしょう。

さらに、先行研究調査を行うことにより、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。

このことは、自分の研究テーマを設定して絞っていくための大きな手掛かりとなりますので、この後説明する研究者としての意義にもつながっていくといえます。研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておく、研究テーマ設定の助けにもなるでしょう。

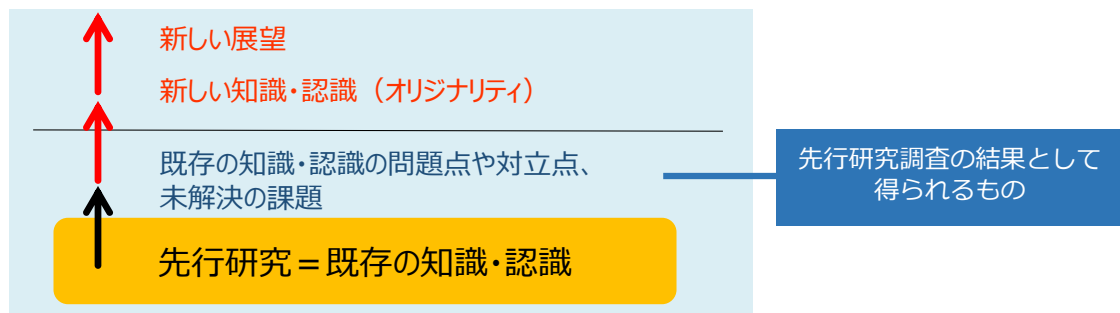
先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すため

研究＝既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



9

先行研究調査の「研究者」としての最大の意義は、このスライドで示している点です。

研究とは、既存の知識に「新しい」知識を追加することです。「新しく」ないと研究とは言えないわけです。

何が新しい知識かどうかを判断するためには、既存の知識である先行研究をできるだけ広く調査するしかありません。

必要とされる「新しさ」は研究分野によっても違いますし、研究者としての段階によっても違ってきます。例えば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なります。

自分に取り組もうとしている内容が「新しい」研究と言えるのかどうかは、先生から随時アドバイスをいただくのが良いでしょう。

論文では、これまで研究されたことを示したうえで、自分の研究の新しさ、すなわち、研究の意義を示す必要があります。

先行研究調査は研究に欠かせないプロセスと言えるでしょう。

2つのアプローチ

参考文献をたどる[芋づる式]

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

文献データベースによる検索

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

10

先行研究調査には主に2つの方法があります。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。

研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては大きな恩恵が得られる方法ですが、直接の参照関係に含まれていない関連文献を見落としてしまう可能性もあります。

次のスライドからは、こちらの「芋づる式」の調査方法について詳しくご紹介します。

もう1つの方法として、文献データベースによる検索が挙げられます。

「文献探索」と聞いて皆さんがまず思い浮かべるのはこちらではないでしょうか。メリットとしては、適切に活用すれば、多くの文献を発見できることがあります。一方、デメリットとしては、使い方を誤ると見逃しが多く発生してしまうことがあります。

人文社会科学系の日本語文献を検索するためのデータベースは、総じて高度な機能が整備されていないことが多く、うまく活用しなければこのようなデメリットが発生しがちです。

本教材の後半では、文献データベース検索のコツを中心にご紹介していきます。

このように、文献データベースによる検索および芋づる式調査という2つのアプローチには、それぞれにメリット・デメリットがあります。うまく併用していくことが大切です。

2. 「芋づる式」による 先行研究調査



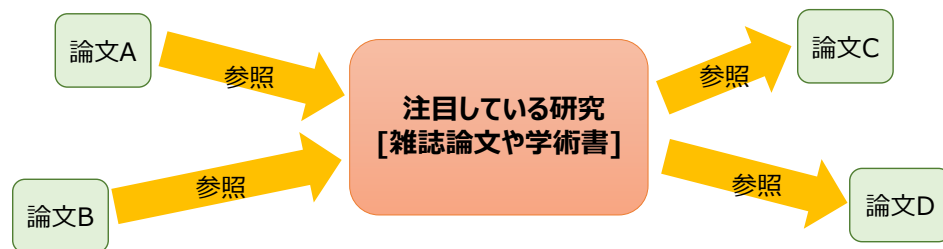
この章では、先行研究調査のアプローチのうちの1つ、「芋づる式」について詳しくみていきます。

芽づる式：“連なり”としての研究

研究は独立しては存在しないもの

これまでの研究の積み重ねがあって、新しい研究が生まれる

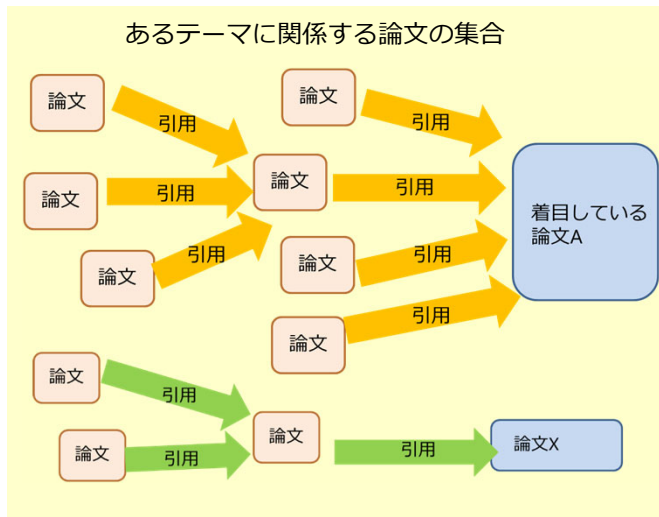
参照した先行研究は、**注や参考文献リスト**として明示するのがルール



12

この図のように、注目している研究があるとして、その研究は他の論文の内容を参照したうえで行われています。そしてこの論文もまた参照されていきます。このように研究とは独立して存在するものではなく、連なりとして存在しています。雑誌論文や学術書に、参考文献リストというものがついているのを見たことがあると思います。他の文献を参照した場合には、参考文献リストとして明示する、というのが研究の世界のルールになっています。

芋づる式：強みとその限界



強み：

無駄無く、過去の関連研究へ逆
ることができる

限界：

- ①文献リストに挙げられていない関連研究を見逃してしまう
- ②着目した文献より後に発表された論文は別に探索する必要がある

このルールを踏まえて、注目している文献の参考文献リストから関連論文を遡っていく、というのが芋づる式の基本的な調査方法です。

これには、研究の流れをたどりやすいというメリットがあります。この図のようにどんどん関連する過去の研究へ遡っていけますね。データベース検索では、どうしてもテーマと関係ない論文も混ざってきてしまうので、「芋づる式」は無駄のない調査方法であるといえます。

デメリットとしては、この方法だけに頼ると、参照関係に無い、他の関連文献を見逃す恐れがあることが挙げられます。

そして当然ですが、過去にしか遡ることができないので、自分が参照している論文より後に発表された論文については別途調査が必要です。

研究初期段階における芋づる式の活用法

新しい文献からたどる

基本的に、新しい文献はそれまでの研究を踏まえている

専門的なテーマの論文からではなく、基本文献からたどる

そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどり始めるほうが漏れが少ない

専門的なテーマの論文の文献リストは、その論文で踏まえるべき文献にあらかじめ絞り込まれている = 限られた範囲でしか芋づるをたどれない

どのような文献であっても、参考文献リストに掲載する文献の選別には、著者・編者の問題意識や評価が入ってきます。
1つの文献からの芋づる式調査ではどうしても漏れが生じるので、複数の文献を併せて活用するようにしましょう。



14

研究初期段階において、すなわち、研究史を把握していく、という段階においては、この2つが芋づる式活用時の基本ルールとなるでしょう。

1つ目は、「新しい文献を起点にする」です。

基本的には、新しい文献はそれまでの研究成果を踏まえているはずです。どの文献を起点にするか迷ったときは、より新しい文献から辿りはじめると良いでしょう。

2つ目は、「専門的なテーマの論文ではなく、次のスライド以降で紹介するような基本文献を起点とする」です。

専門的なテーマの論文の参考文献リストは、その論文で踏まえるべき細かいテーマの文献にあらかじめ絞り込まれていますので、限られた範囲でしか芋づるをたどれないことが多いです。

そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどるほうが、先行研究調査として漏れが少なくなるでしょう。

研究初期段階で起点とする基本文献

参考図書（事典・辞書・ハンドブック・便覧など）

各項目の解説中の参考文献⇒そのテーマの基本文献の可能性が高い
参考図書の中でも、専門家コミュニティで編集されているもの（学会名で編集されている、各項目ごとに専門家が分担執筆している 等）がオススメ

概説書・入門書

その分野の代表的な概説書・入門書に挙げられている参考文献
初学者向けの文献リストが用意されているものも



とくに初めてそのテーマの先行研究調査を行うときに、芋づるの起点とするのにお勧めなのが、このスライドに示すような文献です。

まず1つ目が事典類です。

事典類の各項目の終わりに、参考文献が示してある場合があります。それらは、そのテーマの基本文献である可能性が高いです。

事典類といってもさまざまなものがありますが、専門家コミュニティで編集されている事典類があれば、解説内容も参考文献も、より信頼度が高いものと言えるでしょう。

専門家コミュニティで編集されているものとは、たとえば、学会名で編集されているものや、多くの専門家が編集に参加していてテーマ毎に分担して執筆しているものなどです。

総合図書館では、A棟2階に参考図書コーナーがあります。最近は電子で読めるものもあります。

次に、概説書・入門書等の学術書です。

教科書も含めて、その分野の代表的な概説書・入門書に挙げられている参考文献は、基本文献である可能性が高いです。

親切に、初学者向けの文献リスト・読書案内を用意してくれているようなものもあります。ぜひ有効に活用していきましょう。

総合図書館では、概説書や入門書はA棟3階・4階の学習用図書エリアに置いてあ

ります。また、新書コーナーの新書も入門書といえます。タイトルに〇〇学概説、とか、〇〇入門、などと書かれていれば、これがその分野をこれから学ぼうとしている人向けの本なのだ、と思ってください。

研究初期段階で起点とする基本文献

専門書

専門書の序章などで、研究史の整理がされていれば起点として有効

レビュー論文

そのテーマに関する文献を総覧・評価⇒多くの文献への起点となる

統一的な名称はないが、例えば「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった論題が付けられている

雑誌によっては、定期的にレビュー論文が掲載されるものもある

16

次に、専門書とレビュー論文について紹介します。

専門書は本文の内容が難しく少し取っ付きにくいかもしれませんが、序章などで研究史の整理がされていることが多くあります。研究史の整理で挙げられている文献を起点とすると、重要文献を拾っていくことができるでしょう。

総合図書館では、専門書はA棟3階・4階の学習用図書のエリアと、書庫棟及びA棟5階の研究用図書のエリアにあります。

次に、レビュー論文です。

これも、あるテーマに関する研究史を整理するもので、多くの文献情報を得ることができます。

決まった論題が付いている訳ではないのですが、例えば、「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった名称がつけられています。学問分野ごとに学術雑誌が出版されていますが、雑誌の中には、定期的にレビュー論文を掲載するようなものもあります。

とはいえ、どの文献が起点とするのにふさわしい基本文献であるかを見極めるのは、初学者には難しい問題です。

自分でも候補となる文献を考えてみた上で、よりふさわしい文献が無いか、先生にアドバイスをもらうのが良いでしょう。

初学者の段階を過ぎて、ある程度研究を進めてからは、着目した論文を起点に、自分なりに取捨選択や工夫を行いながら芋づるをたどっていくことになります。

3.文献データベースについて（概要）



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

網羅性の問題

収録範囲が示されていない＝何を検索できているか分からない

⇔できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

※とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報＝ここでは学術文献でないもの）がかなり多い

18

文献の「検索」と聞いて、まずGoogle、Google Books、Google Scholarを思い浮かべる方も多いかもしれません。

もちろんある程度の検索はできますが、先行研究調査という目的で使用するには、問題があります。

1つ目は、網羅性の問題です。Google Scholarなどでは、収録の基準が公開されておらず、ブラックボックスとなっています。
重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。

2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかったり、並び替えや絞り込み機能が弱かったりします。また、検索結果の上位に表示される文献が、どういう基準で選ばれているのか、こちらも公開されていないので分かりません。

3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。インターフェース上の書誌情報がまちまちであるため、検索結果の中から必要な文献を選別作業していくことが難しいです。また、荒い書誌情報のものも検索結果に含まれるため、その情報をもとに文献入手することが難しいものもあります。

とくにGoogleは学術情報を探すためのものではありませんので、ノイズが多すぎます。

Google Books、Google Scholarは、情報が全然見つからず困っているときや、何から学習していいかわからない、というときには、助けになることもあります。しかし、あくまで補助的な立ち位置だと思ってください。網羅的な系統立てた検索には向いていません。

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

阪大で契約しているデータベースは有料のものも多い

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト＝文献データベースがある
ということ意識する

19

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化したデータベースが存在します。

そして検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。

対象による使い分けがあるというのは、一般の情報検索と同じです。

例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということ意識してください。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっているわけではない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

20

ここで、文献データベースの機能について、きちんと理解してもらいたいことをお伝えします。

まず、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して、検索する人に提供する、ということです。

提供されているのは「書誌情報」というところがポイントです。

最近では、文献データベース上でPDFファイルを読めることが多いのですが、それはあくまで付加的な機能です。

文献データベース側で、大阪大学で読める全ての論文のPDFファイルを掲載している訳では無いので注意しましょう。

また、そもそも、大阪大学で読むことができる論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が大阪大学では読めない、ということもあるでしょう。

先行研究調査では、検索と入手を切り分けることが大切です。

文献データベースでは、まず「検索」によって、必要と思われる論文の書誌情報を得ることに専念しましょう。

4.文献データベースによる 日本語図書の先行研究調査



次に、文献データベースを使った、日本語図書の先行研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書のデータベース ≡ 蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか / どこに所蔵しているのかを調べるためのもの
図書として出版されている先行研究の調査にも援用できる

所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書 → 「大阪大学OPAC」 ※各大学のOPACがある
国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて → 「CiNii Books」
国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館 → 「NDLサーチ」
都道府県内の公共図書館をまとめて → 「カーリル」「大阪府立図書館横断検索」等
海外の図書館 → 「WorldCat」等

22

図書を対象としたデータベースは、どこに所蔵しているのか、という蔵書検索システムとしての性質を持っていることが多いです。
これらのデータベースは、欲しい図書がどこにあるかを調べることができるだけでなく、図書として出版されている先行研究の調査にも活用することができます。

所蔵している機関によって収録データベースが異なる、ということを意識してください。
機関ごとに作成されているものもあれば、複数の機関の蔵書をまとめて検索できるものもあります。

適切なデータベースの選択：図書

日本語の学術書の検索は、基本的には以下の2つで足りる

CiNii Books	国内のほとんどの大学・研究機関の図書館所蔵資料を検索できる
国立国会図書館サーチ (NDLサーチ)	国立国会図書館法によって、国内で出版された図書は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版されたほぼ全ての図書が所蔵されている さらに全国の都道府県立図書館、政令指定都市立図書館の所蔵資料も検索できる

23

日本語の学術書の先行研究調査は、基本的にはCiNii Booksと国立国会図書館サーチの2つで足りる。

CiNii Booksには、国内のほとんどの大学と、研究機関の所蔵資料が収録されていますので、まずはCiNii Booksを活用するのが基本となります。
日本語の学術書であれば、基本的にはどこかの大学・研究機関の図書館で所蔵していると考えられるためです。
CiNii Booksに登録がないものは、かなり希少なもの・ニッチな分野のものであるか、出版されたばかりでまだ所蔵されていないかのどちらかでしょう。

国立国会図書館サーチ（以後NDLサーチと言います）では、国立国会図書館が所蔵する資料や、全国の都道府県立図書館、政令指定都市の図書館などが所蔵する資料を検索することができます。
CiNii Booksで見つからなかった資料も、NDLサーチで見つかることがあるので、あわせて検索してみると良いでしょう。

図書を検索するときのポイント

書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

多くのデータベースでこれが基本

自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

キーワードの検討がとても大切

同義語や類義語、上位語、下位語を検討する

とくに大切なのが「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）

←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも、広い概念が書名に入っていることが多い

図書を検索できる多くのデータベースでは、目次は検索できません。
書名・著者名などに対してしかキーワード検索できません。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語、またそのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

とくに大切なのが「**上位語**」です。論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多いため、自分で思いついたキーワードよりも、広い概念が本のタイトルになっていることが多いです。そのため、自分の入力したキーワードでの検索結果が想定より少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて <https://ci.nii.ac.jp/books/>

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌」検索タブで目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ

AND, ORなどの論理演算子も使える



「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索ができる

ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象

全ての資料に対して目次を検索できるわけではない

25

CiNii Booksについてご紹介します。

CiNii Booksでは、「図書・雑誌検索」タブが初期選択されています。この状態ですと、目次が検索できるのはほんの一部の資料のみで、基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。

AND, ORなどの論理演算子を使うことができます。これについては次の5章で説明します。

ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索で、ヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。

ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、大阪大学所蔵資料が一番上に表示されて便利

キャンパス内からであれば自動でこのモードになる



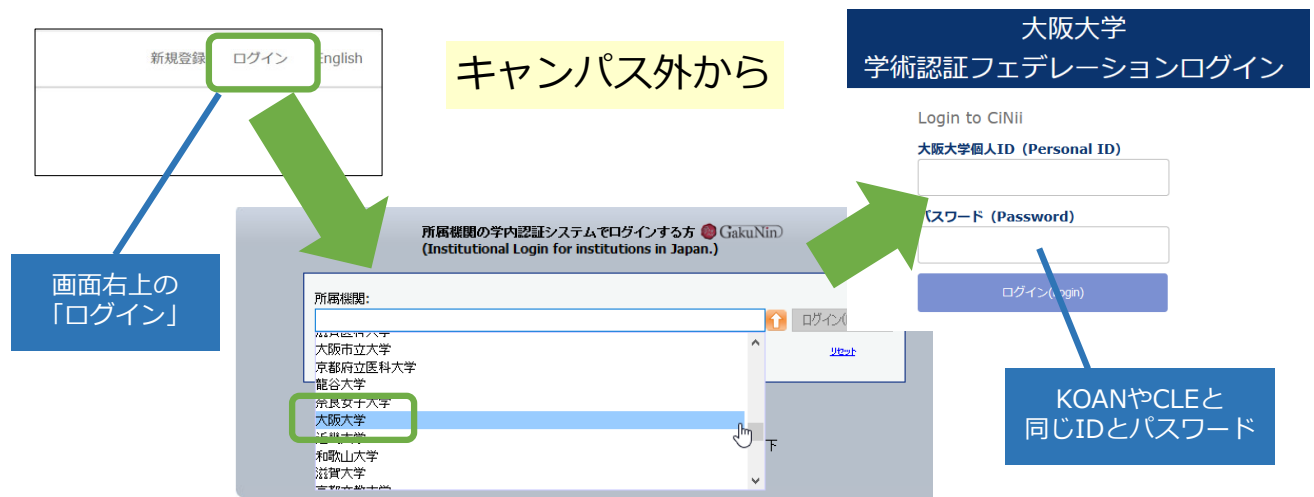
大阪大学の
所蔵資料

26

CiNii Booksについての補足情報です。

CiNii Booksにキャンパス内からアクセスすると、所蔵図書館リストの一番上に大阪大学の図書館が表示され、大阪大学での所蔵有無が一目でわかって便利です。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする



27

キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の図書館を一番上に表示することが可能です。

方法としてはこのスライドのとおりです。

CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大阪大学個人IDでログインします。

国立国会図書館サーチについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ
AND, ORなどの論理演算子も使える



<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチで目次データを検索するには

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/plan/post_1014

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。

- ・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
- ・国立国会図書館サーチは1968年頃までが主



28

次に、国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）について紹介します。
こちらでも一部の資料については、目次を対象に検索できますが、基本的には書名・著者名・出版社名のみが検索できる項目となっています。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

2つのデータベースは、目次データの主な収録年代が違います。
CiNii Booksの「内容検索」タブでは主に1986年以降の資料、NDLサーチでは主に1968年頃までの資料の目次データが多くなっています。
が、実際に検索をしてみると、論文集の個別タイトルは内容細目としてわりと収録されているので、最近の図書が内容でヒットすることもあるように思います。
どうぞ使ってみてください。

OPACでの先行研究調査では不十分？

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料

→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的には検索できません
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索 SNS△ツイッター
OR検索 SNS△+△ツイッター
※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。
※「+」は必ず半角で入力



29

日本語図書の先行研究調査となると、まずは大阪大学OPACを使っている、という方も多いかもしれません。

大阪大学OPACから検索できる資料はあくまで大阪大学で所蔵している範囲のもので、

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ありますので、大阪大学OPACでの調査だけでは不十分です。

大阪大学の図書館で所蔵している図書は、基本的にCiNii Booksに登録されている、と考えていただいて差し支えありません。

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの収録資料も基本的に検索できています。

漏れなく正確な先行研究調査を行うという観点からすると、CiNii BooksとNDLサーチの両方を活用して、日本語の学術書を幅広く探すと良いでしょう。

5.文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 －CiNii Researchを事例に



それでは、第5章「日本語論文検索のキソ CiNii Researchを事例に」へ進んでいきます。

適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野型 or 特定分野 / 日本語文献 or 海外文献 のマトリクス

分野	国内文献	海外文献
全分野	CiNii Research	Web of Science Scopus
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学	医中誌Web	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースの
ほうが一般的に、
・その分野に関して、収録論文が多い
・より高度な検索が可能
(シソーラス等⇒補遺参照)

これらは一例です。
附属図書館Webサイトのデータベース一覧を一度チェックしてみてください。

31

雑誌論文の情報を検索するためのデータベースは、2つの区分から選択するのが基本となります。

1つ目の区分は、全分野型か特定分野型かというもの。2つ目の区分は国内論文か、海外論文かというものです。

全分野型があれば特定分野型のデータベースは要らないのでは？と思われるかもしれませんが、

しかし、特定分野のデータベースの方が、その分野の論文が多く収録されており、また、より高度な検索機能があることが多いです。

CiNii Researchとは

<https://cir.nii.ac.jp/>

日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象
分野を限定せず、幅広く収録
検索機能は残念ながら強くないので、
工夫して利用する必要がある（後述）



「論文」を選択

事例としてCiNii Researchを使う理由

人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、
実質的にCiNii Research一択であるため
この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じるため

32

ここからは、CiNii Researchというデータベースを使って、具体的に日本語論文検索の方法を見ていきます。

CiNii Researchは、1つ前のスライドの表にあったように、全分野型のデータベースです。

CiNii Researchでは図書や博士論文も調べることができますが、ここでは雑誌論文を探すため、常に下のタブで論文を選択しておく、または全体で探した後で論文で絞り込むことを意識するようにしてください。

なお、余談なのですが、このCiNii Researchには、4章で紹介したCiNii Booksが含まれております。「本」というタブの中身が、CiNii Booksです。しかし、いろいろと調べてみたところ、どうもCiNii Booksで検索した方が検索の精度が高いようです。CiNii Booksには、内容にかかわるBookデータベース、というものが入っているのですが、CiNii Researchのほうには入っていないこと、またCiNii Researchは多数のデータベースからデータを得ており、結果として同じ本を指すデータが複数収録されてしまっていることが理由かと思われます。そしてCiNii Researchで表示された結果をクリックすると、結局はCiNii Booksに飛びます。

こうした事情を踏まえ、論文ではなく図書を探す場合には、今のところ、CiNii Booksを検索していただいた方がよいと思います。

さて、論文の話に戻しましょう。

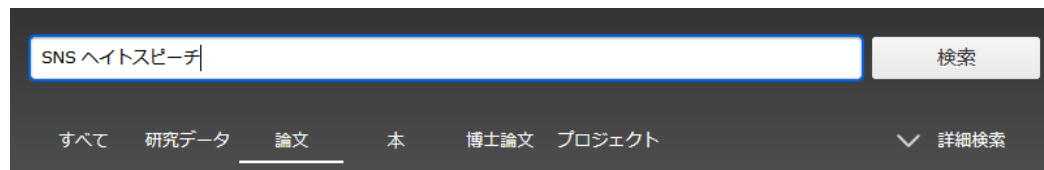
人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、ほぼCiNii Research一択となります。

今日ここで紹介する方法は、具体的な操作方法というよりも、検索の際のコツが中心なので、他のデータベースでも、同じような考え方で使っていただくことができます。

検索例題

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみとする



SNS ヘイトスピーチ

検索

すべて 研究データ 論文 本 博士論文 プロジェクト

詳細検索

CiNii Researchで「SNS ヘイトスピーチ」で論文を検索
→7件しかヒットしない。

もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



33

では、論文の検索をしてみましょう。日本語資料を対象に、「SNSとヘイトスピーチの関係性について」とうテーマで先行研究調査を行います。
まず思いつく2つのキーワード「SNS」と「ヘイトスピーチ」を入力して検索してみたところ、7件しかヒットしませんでした。

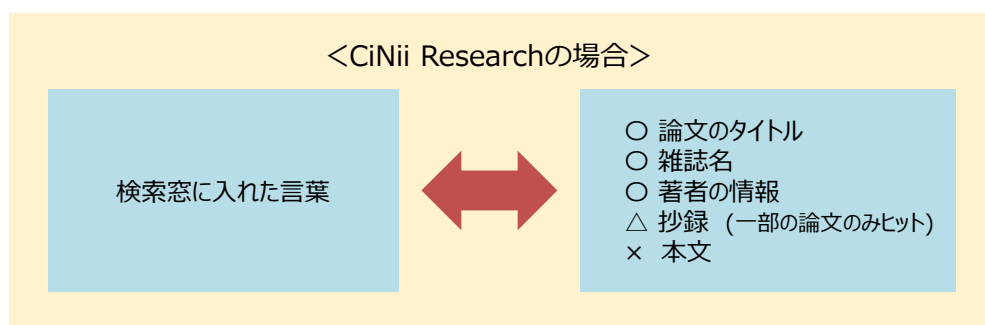
本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？
この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

※検索結果の件数は2024/6/17時点

ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」

検索窓に入れた言葉と、論文タイトルなどで使われている言葉が完全に一致すれば、検索結果として返ってくる



34

まず1つ目の検索のポイントは、データベースの検索方式に注意する、ということです。

CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」のデータベースに分類されます。入力したキーワードそのものが、論文タイトルや雑誌名、著者の情報に入っている場合はヒットします。

入力したキーワードと少しでも違うと、ヒットしません。

ただし、CiNii Researchでは、末尾のS、英単語の複数形については無視しているようで、同じ結果を返してきます。

今回の例の場合、「SN」で検索しても、「SNS」で検索したのと同じ結果になります。

ポイント1：データベースの検索方式

完全に一致しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

「SNS ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「ツイッター ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「twitter ヘイトスピーチ」→ヒットする

人の目で見れば、
関係のある論文なのは明らかなのに…

品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出

渡辺 創, Mondher Bouazizi, 大槻 知明 電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116 (407), 7-12, 2017-01

大阪大学で本文を探す

大阪大学OPAC

35

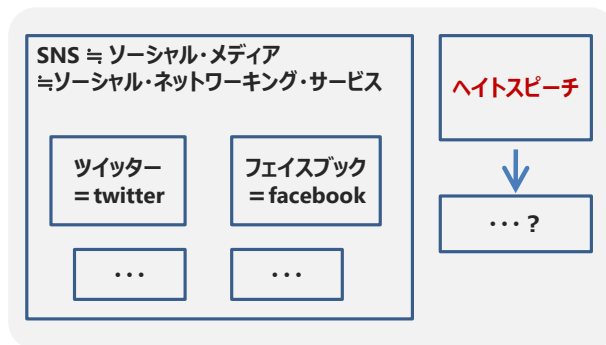
さて、完全に一致しないとヒットしない、とはどういうことでしょうか。
例えば、画面上に表示されている「品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出」という論文は、探しているテーマに関係しているように思えますが、さきほどの検索ではヒットしませんでした。

この論文は、「SNS スペース ヘイトスピーチ」や「カタカナのツイッター スペース ヘイトスピーチ」ではヒットせず、「英語のtwitter スペース ヘイトスピーチ」とするとヒットします。
単純に、論文のタイトルに含まれているとおり、英語でtwitter、と入力しないとヒットしないのです。

そのため、次に挙げるような工夫が必要となってきます。

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択が非常に重要
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみましょう

36

先ほどの例でも見たとおり、キーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択するかが重要となります。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語だけでなく、そのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、「SNS」というキーワードは、「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。また下位語としては、ツイッターやフェイスブックといった、具体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。さらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違いを考えてみる必要があります。

次に、「ヘイトスピーチ」というキーワードについても検討しましょう。自分で考えてみても、他のキーワードが見つからないときには、参考図書などを使って探してみるといいでしょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

例：JapanKnowledge Lib 複数の辞書・事典をまとめて検索できる

[附属図書館Webサイト](#) TOPページの検索窓上側の「データベース」タブから
自宅から使うときは検索窓下側の「キャンパス外から電子リソースを使う」から

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」

<https://thesaurus-map.jst.go.jp/>

科学技術分野の専門用語を中心に

参考図書とは、百科事典や辞書などのことです。

参考図書にはオンラインで使えるものもあります。

例えばデータベース「JapanKnowledge Lib」は、複数の辞書・事典をまとめて検索できるサービスです。

JapanKnowledge Libは、自宅からも使うことができます。附属図書館WebサイトTOPページの蔵書検索の下側、「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスしてください。

個人IDとパスワードでログインすることで使えます。

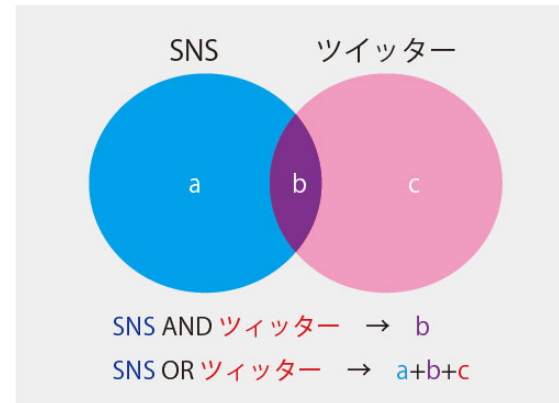
また、便利に使える無料ツールとして科学技術振興機構の「シソーラスmap」もおすすめです。

ある単語の上位・下位の概念や、関連する単語を視覚的に得ることができます。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Researchでの入力方法
AND 検索	SNS△ツイッター 「SNS」と「ツイッター」両方の キーワードを含む資料を検索
OR 検索	SNS△OR△ツイッター 「SNS」もしくは「ツイッター」の どちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



38

文献データベース検索における3つ目のポイントは、論理演算を上手に使うことです。論理演算を駆使して、集めたキーワードを有効に活用しましょう。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索、この2つがあります。AND検索は入力した全てのキーワードを含むもの、という検索です。CiNii Researchではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。AND検索は、一般的な検索のイメージとして皆さんがお持ちの検索方法かなと思います。

もう一つはOR検索です。こちらは入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。

CiNii Researchではキーワードの間に「スペース 大文字のOR スペース」と入力することで、OR検索ができます。

単純に言いますと、AND検索は検索結果を減らすことにつながり、OR検索は増やすことにつながります。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する
より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、
・使用できる論理演算の種類
・その論理演算の入力方法
は異なります。
新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



39

ポイント1で見たとおり、CiNii Researchのようなキーワード検索方式のデータベースは、自分で入力したキーワードに完全に一致しなければヒットしません。必要な論文が検索結果から漏れてしまう恐れもあります。

そこで今回は、OR検索を活用しましょう。
ポイント2で得た複数のキーワードをOR検索を使って組み込むことで、より漏れが少ない形での検索ができます。

なお、データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法は異なります。
新しいデータベースを使うときは、まずヘルプページやマニュアルを確認していただくことをお勧めします。

検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

—使用するデータベースはCiNii Research

<https://cir.nii.ac.jp/>

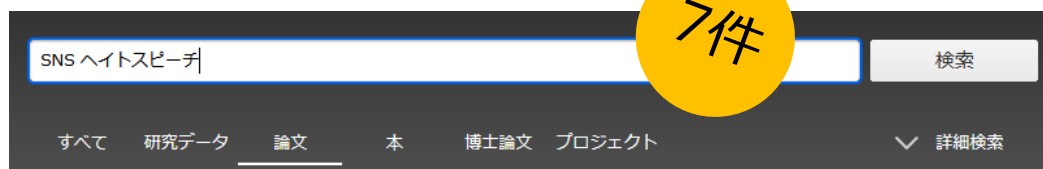
・検索式中の「△」はスペース。

半角でも全角でもOK。

・CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、
検索式上で優先されます。

・ヒット件数は2024年6月17日時点

検索式①「SNS△ヘイトスピーチ」



40

それでは、ここまでご紹介した3つのポイントを踏まえて、実際に検索例題をやってみましょう。

先に少し触れましたとおり、「SNS スペース ヘイトスピーチ」では7件しかヒットしませんでした。間にスペースを入れることで、SNSとヘイトスピーチのAND検索をしていますね。

検索結果を増やすために、まずは「SNS」のほうの同義語、類義語、上位・下位語を検討します。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・件数が明らかに少ないので、「SNS」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・同義語として、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」と「ソーシャル・メディア」
- ・とくに広く使われている「SNS」としてtwitterとfacebookを下位語に想定。もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

検索式②

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△
ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△ヘイトスピーチ

13件

「SNS」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

- ・検索式「SNS」→約56,400件
- ・検索式「SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook」→約65,900件と増加

41

SNSの言い換えとして、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、ソーシャル・メディア、の2種類の同義語を用意しました。
また、とくに広く使われているSNSとして、twitter（今はXですが）とfacebookも使ってみましょう。

日本語論文であっても、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

そして、全てを「スペース 大文字OR スペース」でつなげます。()でくくると、その部分をグループ化することができます。今回はSNSという概念に関するひとつのグループを作り、()でくくります。

ここまで考えたSNSのグループと、ヘイトスピーチとのAND検索という形で改めて検索してみます。そうすると、結果は13件でした。残念ながらあまり増えていませんね。

ちなみに、SNSのみで検索すると約56,400件でした。

先ほど考えたSNSの同義語グループで検索すると9,500件ほど数が増えるので、「SNS」側のキーワードの広げ方としては悪くなさそうです。

では、次は「ヘイトスピーチ」のキーワードを広げてみましょう。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・「ヘイトスピーチ」側のキーワードを広げることを考える
 - ・関連キーワードを思い浮かないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使う
- JapanKnowledge Libで「ヘイトスピーチ」を検索したところ、「差別」「憎悪（＝ヘイト）表現」「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できた

検索式③

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイト△OR△差別△OR△表現の自由△OR△言論の自由)

111件

42

自分では同義語などが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。

例えば、ジャパンナレッジで「ヘイトスピーチ」で検索してみたところ、「差別」「憎悪」つまりヘイト、「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できました。

これらを使って改めてOR検索を行ってみます。

ヘイトスピーチのほうもスペース大文字ORスペースでつなぎ、()でくくってグループ化すれば良いですね。「ヘイトスピーチ」という語は「ヘイト」で検索すれば必ずヒットするので、「ヘイト」の語にまとめてしまいましょう。

そして2つのグループをスペースで繋いでAND検索します。

そうすると111件でした。ある程度増えましたね。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

検索結果の論文タイトルを眺めていると

「規制」も関連キーワードとして使えるのではないかと思われた

SNSを規制する議論が起こる背景の1つとしてヘイトスピーチがあるのではないか、という推測

検索式④

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイト△OR△差別△OR△表現の自由△OR△言論の自由△OR△規制)

- ☐  表現の自由の保障切り下げを危惧：ネットでの誹謗中傷を巡るSNS規制の論点
森 寛二 新聞研究 (827) 46-49, 2020-08
[大阪大学で本文を探す](#) [大阪大学OPAC](#)
- ☐  誰のいのちも置きざりにしない社会をめざして：ヒューマンライツ・クリエイター
(特集 相談事業・いじめ対策のいま)
友永 まや ヒューマンライツ = Human rights (389) 14-21, 2020-08
[大阪大学で本文を探す](#) [大阪大学OPAC](#)
- ☐  ドイツのSNS対策法：法規制と表現の自由 (特集 ネット上の人権侵害：法規制と表
現の自由)
鈴木 秀美 ヒューマンライツ = Human rights (385) 2-8, 2020-04
[大阪大学で本文を探す](#) [大阪大学OPAC](#)

212件

43

ここで終えてもいいのですが、もう少し検索結果を広げる方法を考えてみましょう。その際にヒントになるのが、検索結果に出てきている論文タイトルなどです。検索結果を簡単に見ていくと、他にも使えそうなキーワードを得られることが多いです。ここでは「規制」も関連するキーワードとして活用できそうなので使ってみます。

ヘイトスピーチのグループのほうに「規制」をORで追加して検索してみると、212件まで増えました。最初の7件に比べるとかなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、ここまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。
文献データベースを使っでの検索は、キーワードや検索式を練ることがとても大事、ということを感じていただけましたか？

データベース検索で心がけること

予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認

キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだりする

検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単になる

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

44

データベース検索のTipsとして2つご案内しましょう。

1つ目は、予測と検証が大事、ということです。

キーワードや検索式は、ばらばらと思い付きで作成するのではなく、予測を立て、検証をしながら、改良をしていきましょう。

2つ目は検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。

いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分からなくなってきました。各検索式での件数を随時記録しておく、検索式の調整を行いやすいです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではありません。研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査をスムーズに行えます。

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別する

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌 などをもとに選別する
無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある
100～200件程度ならば、人目でじゅうぶん選別可能

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち
→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、ま
んべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法は、本シリーズのもう1つの教材「フルテキスト入手法」で！

45

ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別を、自分の目で行います。

無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100～200件程度ならば、自分の目でざっとチェックできますね。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別をしていきます。CiNii Researchは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

その時に、「入手できるかどうか」は選別基準に入れないでください。
データベース画面上ではどうしてもPDFファイルがあるものに惹かれがちです。
ただ、先にもお伝えしました通り、PDFファイルが読めなくても重要論文である可能性も大いにありますので、入手可否はひとまず考えずに選別作業を行いましょう。

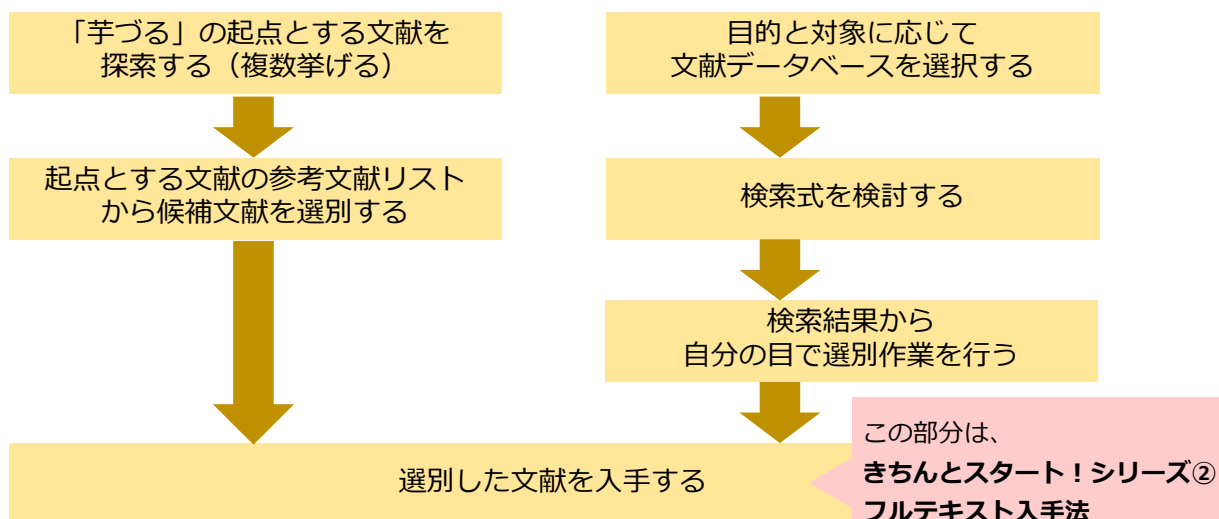
そして、選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。
この入手作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。

まとめ



最後に、この教材のまとめです。

先行研究調査での文献探索～入手までの流れ（おさらい）



先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。全体像を理解できましたか？

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによる調査方法です。

片方の方法でしかうまく見つけることが出来ない文献もあるはずです。両方の方法をしっかり併用して、漏れの無い先行研究調査へとつなげてゆきましょう。

そして、今日読んだことをぜひ近日中にまずは実践してみてください。

何となく「ふむふむ」と読んでも、時間が経つと忘れてしまいますので、実際に手を動かして身に付けていただければと思います。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

職員がお待ちしております

平日9:00-17:00（事前予約不要）

オンラインや[メール](#)での相談も受け付けます

- 適切なデータベースの選択
- それぞれのデータベースの使い方
- 検索式やキーワードの検討 など



48

そして、実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思います。

その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。

カウンターは平日の9時から17時まで開いています。

また、メールやオンラインでの相談も受け付けています。

参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2021)『日本中世史入門：論文を書こう』増補改訂新版. 勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

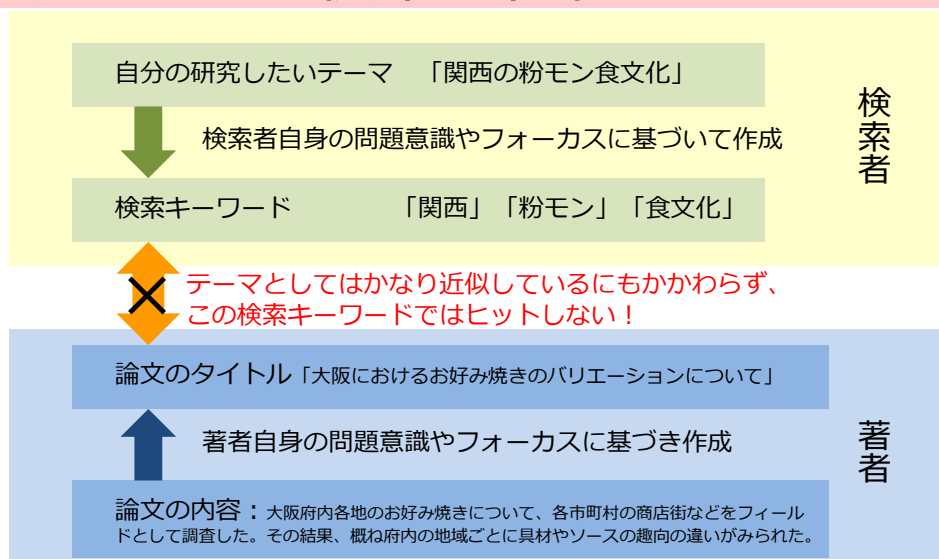
補遺： シソーラスを備えた データベース



ここでは補遺として、シソーラスを備えたデータベースについて紹介します。

シソーラスとは、見出し語と、見出し語同士の関係がセットになった辞書のようなものだと思います。シソーラスを搭載したデータベースにおいては、収録している文献に書かれた言葉も、私たちが検索に使う言葉も、シソーラス内の見出し語に紐づけられ、検索のマッチング率が高まるような設計がなされています。

シソーラスの無いデータベースの キーワード検索の仕組み

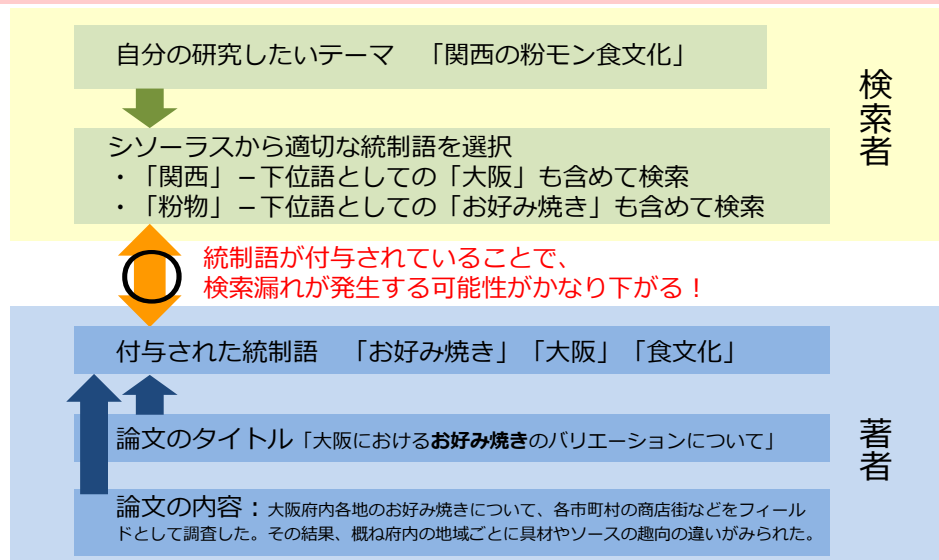


まず、教材の本編でも紹介しました、CiNii Researchなどシソーラスの無いデータベースについてです。

キーワードと論文のタイトル等が完全に一致しないとヒットしない、というお話をしました。

こちらの例をご覧ください。「関西」というキーワードでは「大阪」というタイトルがヒットしない、「粉モン」というキーワードでは「お好み焼き」がヒットしない、ということが起こっていますね。

シソーラスのあるデータベースの 統制語検索の仕組み



一方で、シソーラスのあるデータベースではどうでしょうか。

シソーラスの整備された文献データベースでは、各文献に対して、統一されたタグ＝「統制語」が付与されています。

定められた基準に基づいて、同じテーマを扱う文献には同じ「統制語」が付与されます。

1つの論文のテーマが多面的にとらえられることもよくあるので、その場合は、複数の「統制語」が付与されます。

このようにルール付けされた統制語があれば、その統制語を用いることで、漏れなく検索することができます。

よく整備されたシソーラスのあるデータベースならば、下位語までまとめて検索したりできて大変便利です。

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリット

検索漏れが発生しづらくなる

概念ごとに使用することばを決めているので、同義語・類義語を検討する必要がない
下位語を含んだ検索が可能なデータベースも多い

【注意点】 検索に使用する統制語を選択するのは自分

統制語の選択を用心して行わないと、シソーラスのメリットを発揮できない

先行研究調査はできるだけ「漏れなく」検索したいので、
シソーラスを備えたデータベースを使うのがおすすめ

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリットは、検索漏れが発生しづらくなることです。

同じテーマの論文には同じ統制語が付与されているため、講習会の本編で行ったような同義語・類義語を検討する必要がありません。

先の例のように、下記語を含んだ検索が可能なデータベースも多いです。

注意点としては、検索に使用する統制語を選ぶのは自分だということです。

シソーラスの統制語リストを良く見渡して、どの統制語を選ぶか、ということを用意して行わないと検索漏れが起きてしまう恐れがあります。

こういった注意点はありますが、先行研究調査はできるだけ「漏れなく」行うことを目指していますので、

自分の専門分野にシソーラスを備えたデータベースがあるならば、それを使うことがおすすめです。

シソーラスを備えたデータベースの例

日本語論文のデータベース

J-Dream III（自然科学・工学）、医中誌web（医学）

日本語論文のデータベースでは残念ながら、CiNii Researchなどシソーラスを備えていないデータベースがほとんど

海外論文のデータベース

特定分野型のデータベースはシソーラスを備えているものが多い
シソーラスの付与の精度はさまざま

新しく文献データベースを使い始めるときには、
シソーラスを備えたデータベースかどうか確認するのがオススメです



それでは具体的に、シソーラスを備えたデータベースを紹介しましょう。

まず、日本語論文のデータベースです。自然科学・工学分野のJ-DreamIII、医学系の医中誌webが挙げられます。

残念ながら、日本語論文のデータベースは、シソーラスの無いデータベースがほとんどです。

一方で、海外論文のデータベースについて、特定分野型のデータベースであれば、シソーラスを備えているものが多いです。

新しい文献データベースを使い始めるときは、シソーラスを備えたデータベースかどうかを確認してみて、シソーラスがあればぜひ有効活用しましょう。